

教科(科目の種類)	学 科(コース)名	学 年	単 位 数	履 修 期 間
国 語	各科共通	1 年	2 単位	通 年
	科 目 名	国 語 総 合		

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
概 要	<p>〈話すこと・聞くこと〉様々な話題について自分の考えを持ち、目的や場に応じて論理的かつ効果的に話す力および話を的確に聞き取る力を養う。</p> <p>〈書くこと〉文章の形態や文体、語句などを工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめ、自己評価や相互評価を行う中で、表現の幅を広げる。</p> <p>〈読むこと〉文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、文章に描かれた人物、情景、心情などを読み味わったりすることでものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</p>
授 業 計 画	<p>【1学期】4月～7月</p> <p>① 意見文の書き方～校内弁論大会に向けて～</p> <p>② 随筆「頭の中の無限大」坂口恭平 (1学期中間考査)</p> <p>③ 詩「サーカス」中原中也</p> <p>④ 古文入門「古典の一節を音読しよう」「古典の言葉」</p> <p>⑤ 古文編 説話「児のそら寝」(宇治拾遺物語) (1学期期末考査)</p> <p>⑥ 小説「とんかつ」三浦哲郎</p> <p>⑦ 読書感想文の書き方</p> <p>【2学期】9月～12月</p> <p>⑧ 俳句・短歌「折々のうた」大岡信</p> <p>⑦ 漢文入門「訓読の基礎」漢文の構造・書き下し文のきまり 「名言」 助字・置き字</p> <p>⑧ 故事成語「助長」孟子 (2学期中間考査)</p> <p>⑨ 小説「デューク」江國香織 (2学期期末考査)</p> <p>【3学期】1月～3月</p> <p>⑪ 評論「想像するちから」松沢哲郎</p> <p>⑫ 古文編 随筆「徒然草」兼好</p> <p>⑬ 唐詩「春暁」孟浩然 (学年末考査)</p> <p>⑭ 詩歌をつくろう ⑮スピーチをしよう</p> <p><b>*生徒の実態等を考慮して、変更する可能性あり。</b></p>
評 価 の 観 点	<p>1. 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>2. 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。(話す・聞く能力)</p> <p>3. 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。(書く能力)</p> <p>4. 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。(読む能力)</p> <p>5. 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p><b>※定期考査や豆テスト、発表や提出物で上記を評価する。</b></p>
教 材	<p>教科書：『新編国語総合』教育出版</p> <p>副教材：『意味から学ぶ常用漢字』第一学習社</p>

教科 (科目の種類)	学 科(コース)名	学 年	単 位 数	履 修 期 間
国 語	各科共通	2 年	2 単位	通 年
	科 目 名	国 語 総 合		

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
概 要	<p>〈話すこと・聞くこと〉様々な話題について自分の考えを持ち、目的や場に応じて論理的かつ効果的に話す力および話を的確に聞き取る力を養う。</p> <p>〈書くこと〉文章の形態や文体、語句などを工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめ、自己評価や相互評価を行う中で、表現の幅を広げる。</p> <p>〈読むこと〉文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、文章に描かれた人物、情景、心情などを読み味わったりすることでものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</p>
授 業 計 画	<p>【1学期】 4月～7月</p> <p>① 表現の実践「意見を述べる」校内弁論大会に向けて</p> <p>② 随筆 『赤毛のアン』との出会い 茂木健一郎 (1学期中間考査)</p> <p>③ 古文常識の確認 (いろは歌・月の異名・歴史的仮名遣い等)</p> <p>④ 古文 随筆 『徒然草』『仁和寺にある法師』 (1学期期末考査)</p> <p>⑤ 詩「わたしが一番きれいだったとき」茨木のり子</p> <p>【2学期】 9月～12月</p> <p>⑥ 小説「羅生門」芥川龍之介</p> <p>⑦ 漢文入門「訓読に親しむ(三)」「漢文を読むために2」再読文字 (2学期中間考査)</p> <p>⑧ 漢文 故事「虎の威を借る狐」</p> <p>⑨ 漢詩「春望」杜甫 (2学期期末考査)</p> <p>【3学期】 1月～3月</p> <p>⑩ 評論「水の東西」山崎正和</p> <p>⑪ 古文 物語『伊勢物語』 「芥川」</p> <p>⑫ 短歌・俳句 (学年末考査)</p> <p><b>*生徒の実態等を考慮して、変更することもありうる。</b></p>
評 価 の 観 点	<p>1. 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>2. 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。(話す・聞く能力)</p> <p>3. 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。(書く能力)</p> <p>4. 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。(読む能力)</p> <p>5. 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p><b>※定期考査や豆テスト、発表や提出物で上記を評価する。</b></p>
教 材	<p>教科書：『新編国語総合』教育出版</p> <p>副教材：『音訓別 重要頻出漢字リアルマスター3300』尚文出版編集部 編</p>

教科 (科目の種類)	学 科(コース)名	学 年	単 位 数	履 修 期 間
国 語	各科共通	3 年	3 単位	通 年
	科 目 名	現 代 文 A		

目 標	<p>・近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯に渡って読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
概 要	<p>1. 文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。</p> <p>2. 文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりする。</p> <p>3. 文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。</p> <p>4. 近代以降の言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探求して、言語文化について理解を深める。</p> <p><b>*文章を読む楽しさを味わったり、近代以降の言語文化に触れることの意義を理解したりすることを重視し、読書への関心を高め、読書の習慣を付けるようにする。</b></p>
授 業 計 画	<p>【1学期】 4月～7月</p> <p>① 随想・評論編「さくらさくらさくら」俵万智</p> <p>② 意見を述べる「意見文の書き方」校内弁論大会に向けて (1学期中間考査)</p> <p>③ 小説・詩歌編「I was born」吉野弘</p> <p>④ 随想・評論編「ミロのヴィーナス」清岡卓行 (1学期期末考査)</p> <p>⑤ 小説・詩歌編「ナイン」井上ひさし</p> <hr/> <p>【2学期】 9月～12月</p> <p>⑥ 小説に親しむ「山月記」中島敦 (2学期中間考査)</p> <p>⑦ 随想・評論編「『身銭』を切るコミュニケーション」内田樹 (2学期期末考査)</p> <p>⑧ 小説・詩歌編「信濃路」(短歌), 「春雷」(俳句)</p> <hr/> <p>【3学期】 1月～2月</p> <p>⑧ 随想・評論編「思考の肺活量」鷺田清一 (学年末考査)</p> <p>⑨ 小説・詩歌編「山椒魚」井伏鱒二</p> <p><b>*生徒の実態等を考慮して、変更することもありうる。</b></p>
評 価 の 観 点	<p>1. 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>2. 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。(話す・聞く能力)</p> <p>3. 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。(書く能力)</p> <p>4. 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。(読む能力)</p> <p>5. 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p><b>※定期考査や豆テスト、発表や提出物で上記を評価する。</b></p>
教 材	<p>教科書：『現代文A』東京書籍</p> <p>副教材：『国語常識ベーシック』数研出版</p>

教科(科目の種類)	学 科(コース)名	学 年	単 位 数	履 修 期 間
国 語	各科共通	2年	2単位	通 年
	科 目 名	実践国語(選択科目)		

目 標	<p>・卒業後の社会進出を見据え、実用的な言語知識や言語感覚を習得させるとともに、積極的に他者とコミュニケーションをとり、問題解決や思考の深化を図る態度を育てる。</p>		
概 要	<p>〈主な言語活動〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり討論したりする。</li> <li>優れた文章を読み、鑑賞したことをまとめたりする。</li> <li>関心をもった事柄について調査したことを整理して、解説や論文などにまとめる。</li> <li>相手や目的に応じて、紹介、連絡、依頼などのための話をしたり文章を書いたりする。</li> </ol> <p>*「実践国語」は「国語総合」の表現に関する内容を発展させた科目であり、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の能力を一層伸長することをねらいとしている。</p>		
授 業 計 画	<p>【1学期】 基礎編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①仮名づかいを正しく</li> <li>②送り仮名の付け方</li> <li>③同音異義語に注意する</li> <li>④同訓異字の書き分け</li> <li>⑤類義語を使い分ける</li> <li>⑥慣用的な表現</li> <li>⑦正しい敬語</li> <li>⑧文の乱れに注意する</li> <li>⑨推敲する</li> </ol>	<p>【2学期】 応用編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑩文を短くする</li> <li>⑪的確に伝えるために</li> <li>⑫文体について意識する</li> <li>⑬文の役割を知る</li> <li>⑭要約のコツ</li> <li>⑮接続詞を使い分ける</li> <li>⑯段落に分けて書く</li> <li>⑰文章構成の実際             <ol style="list-style-type: none"> <li>①主題を決める)</li> <li>②主題分析で材料をそろえる</li> <li>③構想表を作る</li> <li>④構想表をもとに文章を書く</li> </ol> </li> </ol>	<p>【3学期】 実践編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑱自分はどんな人?</li> <li>⑲初対面でも伝わる自己PR</li> <li>⑳将来の自分を考える</li> <li>㉑読みやすい履歴書</li> <li>㉒面接での受け答え</li> <li>㉓形式に沿った手紙文</li> <li>㉔志望動機の文章を書く</li> </ol> <p>*授業計画は、生徒の実態等を考慮して変更することもあり得る。</p>
評 価 の 観 点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。(話す・聞く能力)</li> <li>3. 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。(書く能力)</li> <li>4. 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。(知識・理解)</li> </ol> <p>※定期考査や豆テスト、発表や提出物で上記を評価する。</p>		
備 考	<p>教材：『国語表現の実践』京都書房</p> <p>*2年次で実践国語を履修した者は、3年次で実践国語を履修することはできない。</p>		

教科(科目の種類)	学 科(コース)名	学 年	単 位 数	履 修 期 間
国 語	各科共通	3年	2単位	通 年
	科 目 名	実践国語(選択科目)		

目 標	<p>・卒業後の社会進出を見据え、実用的な言語知識や言語感覚を習得させるとともに、積極的に他者とコミュニケーションをとり、問題解決や思考の深化を図る態度を育てる。</p>		
概 要	<p>〈主な言語活動〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり討論したりする。</li> <li>優れた文章を読み、鑑賞したことをまとめたりする。</li> <li>関心をもった事柄について調査したことを整理して、解説や論文などにまとめる。</li> <li>相手や目的に応じて、紹介、連絡、依頼などのための話をしたり文章を書いたりする。</li> </ol> <p>*「実践国語」は「国語総合」の表現に関する内容を発展させた科目であり、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の能力を一層伸長することをねらいとしている。</p>		
授 業 計 画	<p>【1学期】 基礎編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①仮名づかいを正しく</li> <li>②送り仮名の付け方</li> <li>③同音異義語に注意する</li> <li>④同訓異字の書き分け</li> <li>⑤類義語を使い分ける</li> <li>⑥慣用的な表現</li> <li>⑦正しい敬語</li> <li>⑧文の乱れに注意する</li> <li>⑨推敲する</li> </ol>	<p>【2学期】 応用編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑩文を短くする</li> <li>⑪的確に伝えるために</li> <li>⑫文体について意識する</li> <li>⑬文の役割を知る</li> <li>⑭要約のコツ</li> <li>⑮接続詞を使い分ける</li> <li>⑯段落に分けて書く</li> <li>⑰文章構成の実際               <ol style="list-style-type: none"> <li>①主題を決める)</li> <li>②主題分析で材料をそろえる</li> <li>③構想表を作る</li> <li>④構想表をもとに文章を書く</li> </ol> </li> </ol>	<p>【3学期】 実践編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑱自分はどんな人?</li> <li>⑲初対面でも伝わる自己PR</li> <li>⑳将来の自分を考える</li> <li>㉑読みやすい履歴書</li> <li>㉒面接での受け答え</li> <li>㉓形式に沿った手紙文</li> <li>㉔志望動機の文章を書く</li> </ol> <p>*授業計画は、生徒の実態等を考慮して変更することもあり得る。</p>
評 価 の 観 点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。(話す・聞く能力)</li> <li>3. 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。(書く能力)</li> <li>4. 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。(知識・理解)</li> </ol> <p>※定期考査や豆テスト、発表や提出物で上記を評価する。</p>		
備 考	<p>教材：『国語表現の実践』京都書房</p> <p>*2年次で実践国語を履修した者は、3年次で実践国語を履修することはできない。</p>		